



## 旭区から「SDGs未来都市」の実現

皆さまお元気ですか！

昨年、フルマラソンを初めて完走できたので、今年は今年初からNHKの大河ドラマ「いだてん」を毎週楽しみに視聴しています。マラソンの父と呼ばれ、1912年に日本で初めてストックホルムオリンピックに出場した熊本県出身の金栗四三が主人公のドラマは、「スポーツ」という言葉さえ珍しかった当時の日本の様子を興味深く知ることができ勉強になります。東京オリンピックを盛り上げるためにも、視聴率が良くなるといいのですが…。

### SDGsとは？

さて、皆さまは「SDGs」(エス・ディー・ジーズ)をご存知でしょうか？

SDGs(Sustainable Development Goals)は、2030年までに、より良い未来をつくろうと国連で決めた17の「持続可能な開発目標」のことで、全ての国連加盟国が賛成しました。

世界規模で経済も気候もつながっていて、一国の経済危機や環境破壊が全世界に影響を及ぼしてしまう状況の中、経済発展も環境や社会に対する影響を考えなければならない時代になりました。そこで、SDGsは先進国や途上国、政府も行政も企業も個人も、全ての人が全ての人のために取り組み、「誰一人取り残さない」ことを基本理念としています。貧困や飢餓の撲滅、エネルギー問題や気候変動への対応など世界の未来を変えるための17の目標と169のターゲットで構成されています。(裏面参照)

昨年、横浜市は「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に政府から選定されました。

人口減少社会の到来による超高齢社会、地球温暖化対策など環境分野の取組、自然災害への対応など世界共通の課題を解決する先進的なモデル都市に横浜市は選ばれましたので、SDGsを横浜市が我が国の先頭に立って取り組んでいくことができればと思います。

### 若葉台でバス配車の実証実験

早速、市内の「自治体SDGsモデル事業」の取組で、ソフトバンクとトヨタの共同出資会社であるモネ・テクノロジー社が、将来の自動運転社会の実現を見据え、「ICTを活用した地域における移動手段の充実に関する取組」に若葉台地区を選定しました。地元と横浜市、ヨコハマSDGsデザインセンターなどが連携して、スマホで予約し、オンデマンドで地域コミュニティバスを指定場所に配車する実証実験が行われます。議会でも林市長に主張しましたが、高齢者の日常生活の移動手段は重要な課題であり、旭区内の各地域からも「地域コミュニティバス」の要望が多くあるので、若葉台のように将来の課題を解決する「SDGs未来都市」を旭区から実現できるよう私も頑張ります。(関連記事と詳細は裏面)

### 政策集「責任と約束」

SDGsを横浜から推進する60の政策を示した2019よこはま自民党政策集「責任と約束」も政務調査会長として取りまとめました。政策集は冊子やホームページなどでご覧いただければ幸いです。(※ご連絡いただければ政策集の冊子はお送りさせていただきます。)

季節の変わり目、お身体には十分お気をつけいただき、お元気にお過ごしください！

### SDGsを理解するおすすめの本

「SDGs 2030年までのゴール」(日能研)

「未来を変える目標 SDGsアイデアブック」

(Think the Earth)

### 古川なおきプロフィール

県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院 修了  
横浜銀行勤務後、衆議院議員秘書  
平成7年4月 横浜市会議員初当選(26才最年少)  
自民党横浜市会議員団所属/政務調査会長  
横浜市会FCキャプテン  
希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会 理事  
旭区食品衛生協会顧問/旭区サッカー協会顧問  
旭区スポーツダンス協会顧問/旭区卓球協会顧問  
旭区剣道連盟顧問  
2018横浜マラソン完走 5時間8分



# SDGs (持続可能な開発目標)

2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標(その下に、169のターゲット、232の指標が決められている)。特徴は、以下の5つ。



**普遍性** 先進国を含め、全ての国が行動

**包摂性** 人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」

**参画型** 全てのステークホルダーが役割を

**統合性** 社会・経済・環境に統合的に取り組む

**透明性** 定期的にフォローアップ

外務省資料

## 地域における新たな移動手段の充実プロジェクトについて

## 神奈川新聞 2019年(平成31年)2月22日 金曜日

「SDG s 未来都市」に選定された横浜市は、「ヨコハマSDG s デザインセンター」を中心に、市民・企業・大学等と連携し取組を進めています。

こうした中で、平成31年1月18日、横浜市とソフトバンク株式会社は、「SDG s 未来都市・横浜」の実現に向け、ソフトバンクの持つICTの利活用をベースに、相互に連携して取り組みを推進することで、地域のより一層の活性化と市民サービスの向上を図ることに合意し、包括連携協定を締結しました。

この包括連携協定の対象分野に「ICTを活用した、市民に身近な移動手段の充実に関すること」が掲げられており、郊外住宅地において、良好なコミュニティが構築されており、居住地としてのポテンシャルの高いエリアにおいて、成功モデルを構築すべく、若葉台においてICTを活用した移動にかかわる取り組みを進めたいと考え、上記の取組を提案させていただくこととなりました。

同団地内で「若葉台まちづくりセンター」が運行しているコミュニティバス「わかば号」を1台増車。利用したい時間や行き先を

「わかば号」を1台増車。利用したい時間や行き先を

横浜市は21日、旭区の若葉台団地で、スマートフォンを活用したオンデマンドバスの実証実験を行うと明らかにした。民間企業と連携し、利用者のニーズに応じてコミュニティバスを配車する。3月に試乗会を実施してデータを収集し、将来的の事業化を目指し、自動運転技術の活用も見据えている。

スマートフォンで予約すると、バスが効率的なスケジュールを決定し、運行する。運賃は従来通り無料。ソフトバンクとトヨタ自動車車の共同出資会社「モネ・テクノロジーズ」が全国17自治体と連携して行う取り組みの一環。実験に当た

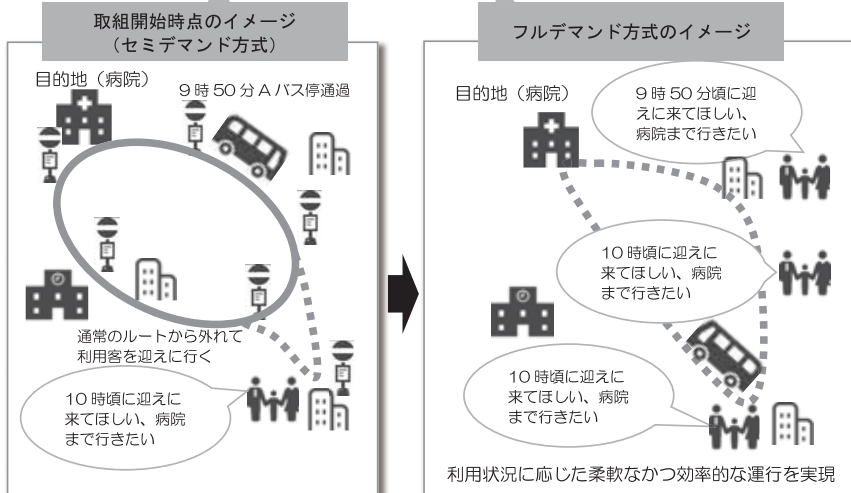
### 若葉台団地 オンデマンドバス実証実験 スマホ予約来月実施へ

り、国連の掲げるSDG s (持続可能な開発目標)の実現に向けて官民が協働する「SDG s デザインセンター」が、企業側の提案と地域のニーズをつないだ。同日の第1回市会定例会本会議で、林文士市長は「郊外部の地域特性に応じ、誰もが住み続けたいと感じるまちづくりを進める」などと述べた。古川直季氏(自民)の質問に答えた。(岡本 晶子)

(取組イメージ)



移動しやすい環境が整った暮らしやすい街の実現へ



横浜市資料